中央新聞 〈2016(H28).1.19(火)中央新聞〉 (第3種郵便物認可)

吉晴の一生 紙芝居に

松江城築城の功績描く

3公民館共同事業

3月完成 4部作 DVD化も計画

松江、安来両市の3公民館が松江開府の祖・堀尾吉晴（1543～1611年）を題材にした紙芝居の制作に取り組んでいる。松江城の築城までを中心に吉晴の一生を全4部作で紹介する。両市内の小学校や公民館で行う歴史学習に役立てる計画で、関係者は「子どもたちの郷土愛を高める教材に仕上げたい」と3月中の完成を目指している。

（佐々木一全）

準備を進めているのは、松江市の城西、雑賀両公民館と、安来市の広瀬公民館。松江城を題材に官民共同でふるさと学習を推進する松江市教育委員会の「国宝松江城授業化プロジェクト」の一環で昨秋、着手した。吉晴の出身地・愛知県大口町の町歴史民俗資料館の協力を得て、戦国時代を題材にした書籍や堀尾家に関する資料を参考に、制作を進めている。

城西公民館の森泰館長(73)が、紙芝居は語り手が聞き手の反応を見ながら、演じ方を自在に変えられるとし「間を取って、子どもたちに考えさせることができ、冊子より教材に向いている」と提案した。

物語は、関ケ原の戦いの後、吉晴が月山富田城（安来市広瀬町）に入るまでを1部とし、2部で織田信長や豊臣秀吉に仕えた経緯を紹介する。3部と4部で、吉晴が築城や城下町の形成に尽力した功績を振り返り、2015年に松江城天守が国宝指定されるまでを描く。

絵は松江市在住のイラストレーターで、松江武者行列のポスターを手掛けたタブチサトシさん(40)（本名・田淵悟史）が担当する。既に絵のサンプルは仕上がっており今後、物語を精査する。教員が教材として活用しやすいよう、時代背景や用語説明を記した資料を別に作成。紙芝居のDVD化にも取り組む。

森館長は「地域で積極的に活用し、子どもたちが歴史上の偉人と時代背景について教養を高められるようにしたい」と話した。

絵のサンプルを囲み、打ち合わせする関係者

全国総体「応援お願い」

出雲と松江 高校生 地元開催PR

7月下旬から中国5県で開かれる全国高校総体（インターハイ）「中国総体」を盛り上げようと、出雲市内7校の高校生27人が18日、同市内のショッピングセンターを手渡した。寄託金は県内の福祉団体に配る。

同後援会は2005年に視覚障害者福祉施設などを運営する島根ライトハウス（松江市宍道町西来待）の支援を目的に設立され、約200の法人・個人が会。映画会やバザーで収益の寄付活動をしている。映画会は15日に松江、出雲両市で開いた。

同後援会はこのほかに共同募金と島根ライト